

真冬の椿展

～平成 30 年第 1 回美浦椿展開催報告～

事務局 小泉不二男

前々から寒中の 1 月に椿展を開けないかとの声がありました。

この時期、茨城つばきの会では総会を開くことを通例としてきました。会議の前にまず椿の鑑賞会を開いています。霜枯れで花のない時期、持ち寄った冬の椿の多さに参加者はいつも驚いています。会結成の当初より一般公開の椿展にできないか、との意見を耳にしました。

出品する会員も、寒中の庭や盆栽棚でひっそり咲いている椿を見ると、誰かに見てもらいたい、こんな花があることを知ってもらいたいと思ったりします。

ただ残念ながら、これまで適当な施設が見つかりませんでした。

使用料や駐車場、苗木の即売が可能であること、他の椿展会場に重ならない等々の条件を満たす会場探しが長年の懸案でした。

平成 29 年 3 月に美浦村郷中に「みほふれ愛プラザ」(以下「プラザ」) がオープンしました。子育て支援と地域振興の総合施設で、運営は美浦村です。

調べると椿展開催が可能なが分かり、2 度の幹事会で詳細を検討しました。さらに 10 月の幹事会は下見を兼ねてプラザで開き、村職員の館長さんとの打ち合わせもしました。



みほふれ愛プラザ (HP より)

プラザは、真新しい設備で気持ちのいい施設です。立地も国道沿いで分かりやすく、駐車場も広々としています。さらに同一敷地にスーパーがあり賑やかさも 있습니다。

切り花を採る椿畑が美浦村にあることも利点の 1 つです。

名称は開催地域名をとって美浦椿展としました。開催日はあえて寒中の開催を念頭に 1 月 28 日の日曜日とし、準備を前日に総会と合わせて行うこととしました。

今年の冬はこのほか寒さが厳しく、出品花が少ないのではと案じられま

した。1月下旬に入って寒波が居座り、連日零下の朝が続き、次第に氷が厚くなっていきました。数年ぶりの寒さと話題でした。

前日 27 日、花切りに椿畑に集まった皆さんからも、寒さで 12 月の早咲き椿展より花が少ないとの声がありました。それでも丹念に椿の木を回って、枝の間からほころびかけた花を一輪一輪見つけ出してくれました。その根気強い作業の結果、時間はかかりましたが、何とか予定した数の花瓶を作ることができました。

切り花ができたところで「プラザ」に移動し他の会員と合流。移動時間は約 10 分。椿畑が近いので助かりました。

研修室に入ると、既に持ち込まれた椿が床に敷かれたシートいっばいに並べられていました。予想をはるかに超えた鉢数にほっと安心し、ようやく愁眉を開くことができました。厳しい寒さのため鉢を室内に取り込むなど、古参会員方の開花調整の努力のあったことを後で聞きました。

隣接の物産館で調達した昼食を研修室で取ったあと、花切りに時間がかかったために 1 時間ほど予定を遅らせて、午後 2 時ようやく総会としました。

総会では、新入会員の紹介や決算報告、事業計画などが承認・決定されました。

総会終了後、会場設営を午後 3 時から始めました。藤田館長さんや職員の方も立ち会って下さいました。このような展示会は初めてだそうで、何かとお気遣いをいただきました。

2 階からテーブルを会場の 1 階フロアに次々に下ろし、計画に従って配置、花の展示をしました。研修室を控室としました。



会場風景

椿展当日の 28 日は最低気温 0 度 C、最高気温 5 度 C でした。小雪がちらつく中、10 時の開場以降、来場者の方々が次々とお見えになり、4 時の閉場ま

でに 125 名を数えました。

新聞等に予告記事を載せず、チラシの手渡しと村内何か所かに手製ポスター掲示でお知らせしただけでしたが、会場は賑わいと活気に満ちていました。

会場に入ると、この寒中にフローアーは春です。この時期にこれだけの品種が咲いているのか、と会員自身が驚いていました。用意したテーブルが足りず、きつめに花瓶を並べるほどでした。



(左)
ヤブツバキ
照葉に赤一重の花がマッチ。葉数が多く樹勢がいい。



(左)
大神楽
一重が多いこの時期に貴重な牡丹咲き。紅白の絞りが見所。

展示花で注目を集めたのは何といっても侘介です。

白侘介、藤侘介、寿侘介、紅侘介、雛侘介、覆輪雛侘助、初雁、太郎冠者(有楽椿)、などが侘介コーナーに並びました。来場者もその品種の多さに驚いていました。多くの方が真冬こそ侘介の季節であると実感されたようです。



白侘介



藤侘介

初めての美浦村開催で会員のほとんどが縁故を持たないため、村在住の浅野勉さん(元教員)、市川昭子さんのお二人に受け付けをお願いいたしました。

浅野さんは、わたくしと同じ高校に勤務したこともある方、市川さんはご主人が元村長で、実家が古くからのご近所です。来場者の皆さんも、お二人を存じ上げる方が多く、和気藹々、笑顔・笑顔の椿展になりました。

また、椿ミニ講話も行われ、講師の飯田庸夫会員が冬の挿し木について説明しました。初めて聞く椿の話に来場者は興味津々の様子でした。



受付風景



椿ミニ講話

今回、椿の花の少ない 1 月に敢えて椿展を開きました。真冬の椿展は全国的にも珍しいのではないのでしょうか。中心は侘助であり冬椿です。椿展のテーマが決まっていることも稀有でしょう。冬こそ椿の季節。これからもこの椿展が続いていくことを願っています。